

こんにちは

日本共産党
県議会活動報告
週刊ニュース

2017年8月27日 NO.942



さら とみ ひこ

吉良富彦 です

事務所

吉良富彦事務所 855-9439 愛宕商店街
議会控室 823-9524 県議会内

核兵器禁止条約を力に世界平和を ヒバクシャが世界を動かした



● 7日、原水爆禁止2017年世界大会開会総会に全国から6千人高知から40名近く参加。被爆者挨拶で日本原水爆被害者団体協議会（被団協）木戸事務局長は9月20日から批准が始まる核兵器禁止条約に参加しない方針の日本政府を「被爆者の苦しみを核保有国に伝え、条約に参加させるのが日本政府の使命だ」「恥ずかしく悲しく腹立たしい」と痛烈に批判。他にも田上長崎市長、国連軍縮問題担当の中満上級代表も「禁止条約」の歴史的意義を語りました。

● 8日、和田忠明前県原水協事務局長と分科会に

参加。高知のビキニ被災者がマグロ漁船員の誇りをかけ国を相手取り闘っている訴訟は、核兵器禁止条約第六条の実効性を求める闘いの先鞭。核実験被災者のマ



ーシャル、アボリジニ等々、「グローバルヒバクシャ」との連帯で核保有国と擁護国の包囲をと、高知での取り組みを報告させて頂きました。

「話の続きはこの本で」と紹介した、高知での取り組みと被災船員の証言を集めた書籍「核被災ノート」は、会場で完売となりました。

●最終日9日、閉会総会7千人。「核兵器禁止条約」という希望を

キャッチしたわたしたちは、いま、高知の若者たちとも一緒に新しい時代



への扉を開くことが出来た事を嬉しく思いました。

●少し残念だったのは、この感動をビキニ被災国家賠償を闘っている高知のマグロ漁船員、原告の皆さんと共有する演出が無かったことです。広島、長崎だけでなく世界中の核実験によるヒバクシャ、福島島原発被害者をも大きく励まし核廃絶運動の前進を図るものになったはずです。

ヒバクシャに残された時間は決して多くはありません。条約締結への声をあげ、さらに、被災船員と核被災者への賠償と救済を求める運動に力を合わせる決意を新たにしました。

キラリン にゃんでも通信



●この夏いかがお過ごしでしょうか。お盆の時期には孫と一緒に帰省するだろーと思っていた娘、そして息子までも帰省できぬとなり、結局、私が上京しました。一歳10か月の孫は、ちよと見ないうちに歩くことやおしゃべりも達者に。阿波踊りの太鼓たたきや踊りにいたっては、もう、びっくりの東京でのお盆でした。